

報 告

第 16 回世界作業療法士連盟大会・第 48 回日本作業療法学会

岩手リハビリテーション学院 高橋 正基

1. はじめに

2014 年 6 月 18 日～ 21 日にパシフィコ横浜にて第 16 回世界作業療法士連盟大会・第 48 回日本作業療法学会が開催された。世界 71 ヶ国の作業療法士が一堂に集い、総勢 6,893 名が参加し活気と熱気に溢れた学会となった。その時の様子や内容を簡単ではあるが私の体験も含め報告する。

2. 大会内容

実施されたプログラムは、WFOT レクチャーシップ、基調講演、シンポジウム、市民公開講座、学術発表（口述発表 898 題、ポスター発表 1,379 題、ワークショップ 58 題）と、とてもボリュームのある内容となった。基調講演では『日本における作業療法の進展と挑戦』、『急激に変化する時代の地域に貢献する作業療法』、作家の大江健三郎氏による『未来を作る働き』の 3 テーマで講演があり、多くの参加者が聴講していた。シンポジウムでは『最高のエビデンスに基づいた作業療法を提供するにはどうしたらよいか』、『東日本大震災からの復興支援と作業療法』、『認知症高齢者に対する作業療法の貢献』の 3 テーマ。市民公開講座では『感動があるからこそ、作業療法である!』をテーマに当事者 3 名が作業療法体験を語りながら、作業療法士と共に作業療法の本質について語り合い、会場の参加者と共に考えるといった内容だった。その他、ウェルカムレセプションやコングレスパーティー、施設見学、商業展示、企画展示などプログラム以外の内容も充実しており、海外からの参加者との交流を図るには絶好の機会となった。

3. 貴重な体験

企画展示には体験型展示や文化交流など様々な企画があり、多くの参加者で賑わっていた。海外からの参加者は着物の着付けやお茶の体験などを通し、日本の文化に触れ、フロアには着物を着た参加者がポスター発表や商業展示を見て回っているといった光景も多くみられた。

私も企画展示の 1 つである各県単位の作業療法士会を紹介するブースを担当する機会があった。私は岩手県士会のブースで、震災からの災害支援の様子を中心に説明などをしたが、多くの海外参加者も足を止めてくれた。英語での説明が出来ず、たどたどしい英単語とジェスチャーでのやり取りとなったが、笑顔の絶えないコミュニケーションができたように感じている。その関わりの中で感じたことは、『非言語的コミュニケーション』と『作業』の力だ。ブース運営中、言葉の壁を感じた私達は、折り紙を通しながらコミュニケーションを図ることとした。実際に海外参加者に折り方を見せ、一緒に進めていながら鶴や手裏剣といった作品を作成していった。その中で相手との距離感が狭まり、安心感が生まれ、自然と笑顔が出てくることを実感した。

4. おわりに

私自身、国際大会に参加するのは初めてであり、演題と参加者の多さに圧倒された。個々に渡されたレシーバーでの同時通訳もあり、参加しやすい大会だったように感じる。世界各国の作業療法の現状と、そこで奮闘する作業療法士の取り組みを直に感じることができ、とても刺激の多い時間となった。

今回は 2018 年 5 月 21 日～ 25 日に南アフリカのケープタウンで開催される予定となっている。

岩手リハビリテーション学院
〒020-0062 盛岡市長田町 15-16